

## 摂南大学看護学部開設にあたり

摂南大学は1975年4月に開学し、現在、看護学部をはじめ、理工学部、外国語学部、経営学部、薬学部、法学部、経済学部の7学部を擁する中規模の総合大学であり、その教育目的は「時代と地域の要請に基づき、深く専門の学術とその応用を教授研究するとともに、全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成し、もって社会の発展と学術・文化の向上をはかる」である。2008年頃より大学改革にとりかかり、その目的は研究の活性化、教育の質的向上さらには、大学の学部・学科の多様化であり、それぞれにシナジー効果を期待できる学部学科の新設を企画した。2010年4月に経済学部の開設、生命科学科と住環境デザイン学科を開設することで工学部を理工学部へ改組転換を行い、2012年4月に看護学部を薬学部キャンパスが存在する枚方校地に開設することでその集大成とした。

もとより、大阪府における看護職養成はその大半が専門学校に頼っていたが、近年、相次いで私立大学に看護学部が新設され、急速に看護教育が4年制大学へとシフトしている。学部の新設は総合大学の改組が主流を占めていたが、専門学校の閉校に伴う他大学への委譲も少なくなかった。全国的に看護系大学の新設は、各大学のハード面については、十分な計画のもとに企画されているが、人材確保と実習病院の確保は大きな課題であった。ことに、実習病院を持たない大学にとっての実習場確保は困難を極める問題であった。

本大学看護学部は大阪府北河内地域では、初の4年制看護学部開設であり、その基本構想として、人材確保については「大学院構想をベースに、文部科学省の教員審査に耐えうる業績と、次代を見据えた年齢構成」、実習病院確保については「北河内地区を代表する病院（星ヶ丘厚生年金病院、関西医科大学附属枚方病院、枚方市民病院、枚方公済病院）を主たる実習病院としたこと」、さらに薬学部と同一キャンパスであることを活かし「看護師に必要な薬に関する知識を手厚くし、薬学部との合同授業・演習を設けることでチーム医療の体感を図ること」や、「薬学部をはじめ他学部と共同研究を推進するなどのシナジー効果を図ること」である。

看護学部の開設準備は、2009年後半頃より学部長および看護系教員の準備担当の人選にとりかかり、準備担当は2010年4月に1名、同年9月に1名が着任し、学長室付けとして、大学学長室企画課の職員とともにその職務に携わるようになった。

新たな学部を開設するにあたり、学部学科の特色を明確にすることが要求されている。本学部は設置の主旨およびそれに伴うカリキュラム編成について、歴史を持つ薬学部と隣接して学部設置が予定されたことを強みとし、指定規則に則り、学部の特色をどのように組み入れるかを試行錯誤した。

結果、「薬に強い看護職者育成」「チーム医療の体感」「専門職とのコーディネーターとしての基礎的能力の醸成」などをその特色として構築した。

薬に強い看護職者育成については、看護の対象者と接する機会の一番多い看護師として、対象者に理解可能な説明、正確な与薬、副作用等の全身状態の管理、医師・薬剤師などと連携・協働・情報の共有などができる人材の養成を目指し、薬物に関する授業科目を強化した。

チーム医療の体感・専門職とのコーディネーターとしての基礎的能力の醸成については、将来、多職種とパートナーシップとしての役割を担う人材育成のために、教養科目・専門科目にコミュニケーションスキル

が醸成できる授業科目の配置、チーム医療における他職種の役割や職能を理解できる授業科目を配置し、授業内容にその意図を明文化した。例えば、「病院薬学演習」「臨床看護学演習Ⅰ」「臨床看護学演習Ⅱ」において、電子カルテ読解やクリニカルパスについて薬学部との共同演習、薬剤師の基本的な業務の理解等を授業内容とする科目を配置した。薬学部生と学びを共有し、お互いを理解しつつ、自らの専門性を発揮することで、看護職者としてのチーム医療・コーディネーターの機能を理解し、その素養を育成することをめざした。

並行して実習病院確定、人材確保、文部科学省への申請書類の作成と総力で取りかかり、2011年5月に文部科学省へ設置認可申請書提出、同年10月14日認可、2012年4月開学の運びとなった。

2011年10月14日には「看護学部開設記念シンポジウム」を開催し、医師で作家の海堂尊氏を招き、「カラダを知ろう、医療を知ろう」のテーマのもと基調講演をして頂いた。このシンポジウムを始め、学校説明会・進学相談会等を精力的にこなしたが、反響の大きさに嬉しい悲鳴とともに、期待に応えることのできる学部を目指すことの使命感を確認した。

最後に、看護学部開設の準備において、早い段階より就任予定となった教員に進捗状況の報告とともに、意見聴取の機会を定期的に設けたことは、人間関係の構築ならびに開学時の円滑な運営に大きく寄与した。さらに、理系である薬学部と同一のキャンパスであり、事務職員が理系ことに看護教育に対する造詣が深かったこと、薬学部教員に看護師養成校で非常勤の経験があることや、国家試験対策に長けていることなど、看護学部設置に対しての認知度・理解度が高かったことが、学部の基礎を作り、維持・発展するための要となっている。開学後は、就任した教員がそれぞれに個性を生かしながら、結束して摂南大学看護学部の基礎を築き、飛躍できるよう研鑽して頂くことを祈念する。

摂南大学看護学部  
学科長 板倉勲子